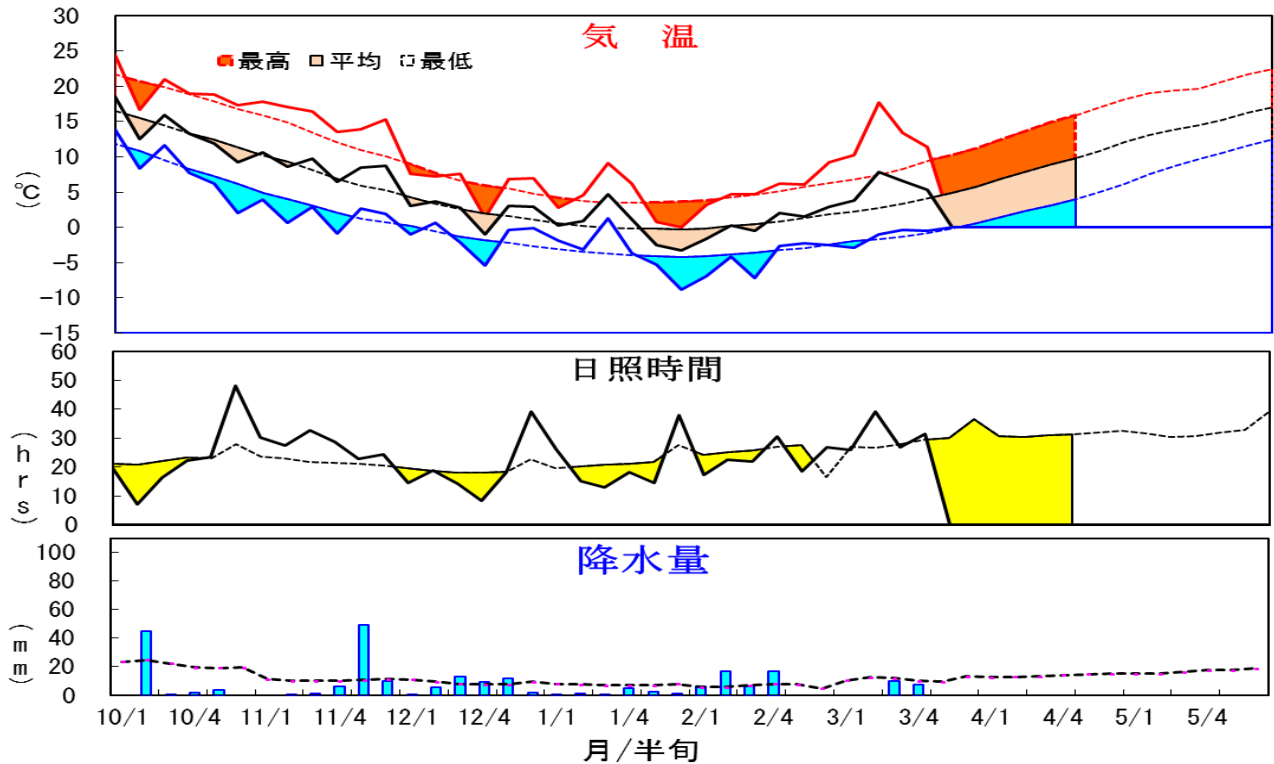


麦作情報第3号

令和5年 3月27日：JA全農みやぎ

～播種期の好天に恵まれ生育は概ね順調 春作業の準備を！～

1 これまでの気象経過



2 東北地方の1か月予報【3月25日～4月24日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 80%、平年並み若しくは低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 40%、少ない確率 20%。
- ・日照時間は、多い確率 20%、平年並み若しくは少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 03/25~04/24	10 10 80
		1週目 03/25~03/31	10 10 80
		2週目 04/01~04/07	10 10 80
		3~4週目 04/08~04/21	20 30 50
降水量	東北日本海側	向こう1か月 03/25~04/24	30 40 30
	東北太平洋側	向こう1か月 03/25~04/24	20 40 40
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 03/25~04/24	30 30 40
	東北太平洋側	向こう1か月 03/25~04/24	40 40 20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 生育状況

(1) 古川農業試験場内 作況試験ほ場 (2月22日現在, 画像含む)

- ・ 中旬播種区の茎数は、どの品種も平年を上回っており、目標生育量は確保されている。
- ・ 下旬播種区の茎数は平年比 94~155%で、概ね目標生育量は確保している。

	品種・区分	草丈			茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比(2/10 現在比(%))	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比(2/10 現在比(%))	本年 (cm)	前年差	平年比(2/10 現在)差
大麦	シュンライ 中旬	10.2	-	91	1107	-	139	5.8	±0	+0
	同 下旬	7.3	-	100	561	-	94	4.5	±0	0.3
	ミノリムギ中旬	11.0	-	97	1187	-	129	6.5	0.6	0.4
	同 下旬	7.6	-	97	685	-	123	4.5	0.2	-0.1
小麦	シラネコムギ中旬	11.7	-	98	1285	-	155	6.5	0.2	0.3
	同 下旬	10.3	-	104	772	-	155	4.9	0.8	0.4
	夏黄金 中旬	9.4	-	95	967	-	118	6.4	0.4	0.6
	同 下旬	8.4	-	99	442	-	114	4.4	0.1	0.1

注1) 中旬は10月19日, 下旬は10月31日に播種。

注2) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値、欠測値を除いた5か年の平均値。

注3) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注4) 下旬播種区は平成29年から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注5) 積雪のため前年の草丈、茎数は欠測となっている。

- ・ 大麦中旬播種区の幼穂長は 1.0~1.2mm で、1月に幼穂形成期に達した。下旬播種区は幼穂形成期には達していない。
- ・ 小麦は、いずれも幼穂形成期には達していない。

	品種・区分	幼穂長(mm)			幼穂形成始期		
		本年	前年	平年	本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)
大麦	シュンライ 中旬	1.3	1.2	1.1	1/5	2/26	2/1
	同 下旬	0.6	0.7	0.7	-	3/14	3/6
	ミノリムギ中旬	1.1	1.0	1.0	1/14	3/2	2/12
	同 下旬	0.5	0.6	0.6	-	3/16	3/7
小麦	シラネコムギ中旬	0.3	0.3	0.3	-	3/24	3/7
	同 下旬	0.2	0.2	0.2	-	3/30	3/23
	夏黄金 中旬	0.3	0.3	0.2	-	3/26	3/10
	同 下旬	0.2	0.2	0.2	-	3/30	3/24

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 下旬播種区は平成29年から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注4) 幼穂形成始期: 幼穂長が1mmに達した日。



【作況試験 ミノリムギ 10月19日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月31日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月19日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月31日播種】



【作況試験 夏黄金 10月19日播種】



【作況試験 夏黄金 10月31日播種】

(2) 麦類生育調査ほ (2月10日現在)

- ・適期に播種できたところが多く、ほとんどのほ場で茎数は平年を上回っている。
- ・10月中に播種された大麦は、幼穂形成期に達している。

	品種・区分	地域	播種期 (月日)	草丈		莖数		幼穂長 (mm)
				本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	
大麦	シュンライ	大河原	11/13	6.7	81	165	45	0.0
		仙台	10/16	10.7	-	1,355	-	1.7
		桃生	10/7	13.1	116	851	163	2.5
	ミノリムギ	桃生	10/15	12.0	104	953	213	1.1
	ホワイトファイバー	大河原	11/9	7.5	-	178	-	0.0
小麦	あおぼの恋	豊里	11/8	8.8	-	236	-	0.3
		古川	10/23	12.8	125	653	113	0.1
	シラネコムギ	鹿島台	10/14	10.2	118	1,176	192	0.0
		桃生	10/16	16.2	139	1,213	297	0.5
		夏黄金	涌谷	10/28	8.6	106	575	117

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注3) 仙台「シュンライ」は、令和4年度播種から調査のため、平年値・前年値(比・差)はない。

注4) 豊里「あおぼの恋」は、平成28年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

4 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ・寒さや積雪の影響で明渠が崩れているところが見られるので、ほ場をよく見回り、停滞水が発生している場合は早急に改善する。
- ・節間伸長期から登熟期にかけては、特に湿害に弱い。粒の充実不良により千粒重が軽くなり、収量・品質が低下する。また、隣接ほ場に水稻が作付けされている場合は、横浸透によって水が浸入するので、排水対策を徹底する。

(2) 麦踏み

- ◆効果：根の浮き上り防止、風による土移動の軽減・防止、穂揃いの均一化、稈の強化、など。
- ・幼穂長が3mm以上になってからの麦踏みは、麦の生育に有害になるので、晩限としては茎立ち(主穂長2cm, 幼穂長2mm程度)までとする。
- ・留意点：粘土質土壌では土壌湿度が高いと逆効果になるので、土が乾いている時に実施する。

(3) 追肥

- ・幼穂形成期の追肥は有効茎歩合を向上させ、穂数を確保する。幼穂長が2～3mmの時が目安で、この頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進む。
- ・幼穂形成期頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招くが、窒素を過剰に施用すると節間伸長により倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努める。
- ・追肥時期が遅れると、効果が十分に得られないので、幼穂長を確認し適期に実施する。

追肥の種類 (生育ステージ)		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	シュンライ, ホワイトファイバー ミノリムギ	2月下旬～3月中旬 3月上旬～4月上旬	4月下旬 4月下旬～5月上旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	硬質麦防止のため 実施しない
小麦	時期		3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬
	10a当たり 施用量		窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)
				5月中旬 窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※「夏黄金」は2倍

